

2. 交流内容に関する事項

(1) 交流内容について(できるだけ具体的にご記入ください)

① 交流名 (事業名)	名寄市・リンゼイ姉妹都市交流事業
② 交流の内容	<p>名寄市とリンゼイ市は1969年(昭和44年)に姉妹都市提携を結んで以来、両市の市民交流団体である「名寄・リンゼイ姉妹都市友好委員会」と「リンゼイ・名寄提携委員会」を中心に、両市民による親善訪問や高校生による交換学生の派遣と受入をはじめとする人的交流などを中心に市民レベルでの交流を続けている。</p> <p>1973年(昭和48年)から始まった交換学生派遣・受入事業は、本事業の中心的な事業であり、約2か月のホームステイを行うとともに、学校訪問や地域イベントへの参加等を通じて、異国の生活や文化に触れることにより、語学習得はもとより人間的成長に大きなプラスの影響を与え、国際理解や交流事業の次代の担い手としてなど、人材育成面で大きく寄与している(2020年現在、名寄から41名、リンゼイから44名の学生が参加)。</p> <p>また、5年ごとの市民親善訪問団の相互派遣は、名寄から計8回、157名、リンゼイからは10回、185名が参加しており、滞在中、地域のお祭りやイベントへの参加などを通じて、多くの市民と交流することにより、姉妹都市交流を広くPRする事業となっている。</p> <p>1972年(昭和47年)から始めたクリスマスカード交換事業は、メールなどインターネットのない時代から始め、当初より数は減ったものの、遠く離れた両市を繋ぐ心温まる事業となっている。</p> <p>2014年(平成26年)から始めたハロウィンパーティーは、海外文化の紹介や街なかの賑わい創出などを目的に開催し、初年度は約300人の参加だったが、年々参加者も増加し、近年は1,400人を超えるイベントとなり、多くの市民が参加する海外文化に親しむイベントとなっている。</p> <p>2019年(令和元年)には姉妹都市提携50周年を迎え、これまで築いてきた交流の歴史を振り返るとともに、次の新たな50年に向けて、多くの市民参加を得ながら、両地域の一層の交流促進、市民の国際理解の深化を図るため、①記念講演会、②記念誌の発刊、③記念漫画の制作、④記念碑の建立、⑤イングリッシュキャンプ、⑥リンゼイ親善訪問団の受入、⑦カナダ料理教室、⑧記念式典・祝賀会、⑨ハロウィンパーティーなどの記念事業を実施した。なお、イングリッシュキャンプについては友好委員会で継続実施することを決め、今後も取り組むこととなっている。</p>
③ 背景・経緯	<p>名寄市とリンゼイ市(現カワーサレイクス市)との交流は、名寄教会のカナダ人宣教師が姉妹都市の提携先を探していた名寄市に、妻の出身地である当時のリンゼイ市を紹介したことがきっかけとなり、1969年(昭和44年)8月1日に両市の間で姉妹都市提携を結んだ。</p> <p>名寄市とリンゼイ市は、2009年(平成18年)と2001年(平成13年)にそれぞれ市町村合併し、新市となったが、2009年(平成18年)8月に行われた姉妹都市提携40周年記念式典の中で、これまでの交流の有益性を確認するとともに、今後の更なる交流の深化を目指し、改めて協定を交わし交流を行っている。</p>
④ 交流の成果	<p><交換学生の派遣・受入事業にかかる成果></p> <p>過去に派遣された学生の中には、進学後、再度カナダの大学に留学し、国際交流の仕事に就く者や、名寄・リンゼイ姉妹都市友好委員会に入会し、現在は役員として活動するなど、日加友好親善の懸け橋となる担い手の育成に繋がっている。また、カナダとの交流だけに留まらず、他の国際交流事業や地域イベントでの通訳など、本市の国際交流事業全般に貢献するなど、人材育成に大きく寄与している。</p> <p><市民訪問団派遣・受入事業にかかる成果></p> <p>市民訪問団の相互訪問により、両地域の友情の絆を深めるとともに、滞在中の地域イベントへの参加・市民との交流により、市民・地域の国際化に大きな役割を果たしている。</p> <p><ハロウィンパーティーにかかる成果></p> <p>「ハロウィンパーティー」開催は、海外文化の理解促進や、町内会や商店街との連携によるまちづくりの推進や街なかの賑わい創出に繋がっている。</p> <p><イングリッシュキャンプにかかる成果></p> <p>小学生が楽しみながら「生きた英語」を学ぶことで、海外への関心や興味の喚起に繋がりと、次代を担う青少年の国際感覚を磨く機会となっている。</p>
⑤ 今後の展望	<p>まちづくりの原動力は人であり、まちは市民に支えられて成り立つものであることから、まちづくりの原点は人づくりといえます。</p> <p>本市総合計画でも国際感覚を持つ人材育成や異文化交流を通じた地域の活性化を目標としており、今後も、長年続けてきた交換学生や市民親善訪問団の相互派遣などの人的交流を継続して実施し、両地域の絆を深めるとともに、「なよろイングリッシュキャンプ」や「ハロウィンパーティー」など50周年記念事業の成果を活かした事業を記念事業として終わらせず、継続して実施することで、今後の国際交流を担う人材育成や異文化交流を通じた地域の活性化を推進していく。</p>
⑥ その他	<p>・2018年(平成30年)8月に名寄市から市民訪問団がカワーサレイクス市を訪問した際、日本とカナダとの相互理解及び友好親善に寄与したとして、これまでの両委員会の活動に対し、在トロント日本国総領事から総領事表彰が授与された。</p> <p>・2019年(令和元年)11月3日、名寄市の文化の発展に貢献したとして、「名寄・リンゼイ姉妹都市友好委員会」が「名寄市文化奨励賞」(国際親善交流)を受賞した。</p>

(2) アピールポイント

下記①～⑥の【審査のポイント】に基づき審査いたします。各視点に沿って、事業の特徴等をご記入ください。

その他、強調すべき点については、「⑦その他」にご記入ください。

項目	根拠・理由
① 先進性	1969年(昭和44年)から始まった名寄市とカワーサレイクス市リンゼイとの姉妹都市交流は、カナダとの姉妹都市提携で北海道で2番目、全国でも5番目という歴史を誇る。 また、1973年(昭和48年)当時北海道で先例のない中、最初に高校生の相互派遣を始め、現在も継続した活動を行っており、2018年(平成30年)には、在トロント日本国総領事から日加の相互理解及び友好親善に寄与したとして表彰を受けるなど、他の模範となりうるものである。
② 独自性	①リンゼイからの訪問団を受け入れる際、英語で市内案内しようという企画で、通訳案内士を招いて市内施設を視察し、簡潔な英語表現で施設・食などを説明した小冊子「Perapera名寄」を発刊し、市民に配布したほか、②1987年(昭和62年)に交換学生として来日し、その後名寄市でAETを務め、現在、両市の交流の懸け橋となっているマーク・ハミルトン氏(現東海大学准教授)の半生を漫画化し(友好委員会会員がストーリーを作成し、イラストは市内高校生が担当するなど全て手作りで制作)、50周年記念品として配布(今後、交換留学生や海外留学に興味がある学生へ配布するなど活用予定)するなど、長年継続している人的交流のほかにも、創意工夫に富んだ事業を行っている。
③ 継続性	1969年(昭和44年)の姉妹都市提携後、両市民による親善訪問や高校生による交換学生の派遣・受入を始めとする人的交流は、姉妹都市交流事業の中心的事業として半世紀にわたり継続し、日加友好親善の懸け橋となる人材育成などにも繋がっており、着実な成果を上げている。また、周年記念事業や新たな事業を行う中で、新たな会員も入会しており、活動の継続性や発展性が期待できる。
④ 活発性	姉妹都市交流の中心的事業である人的交流は、姉妹都市提携後50年以上継続しており、これまで名寄から41名、リンゼイから44名の高校生が派遣され、市民親善訪問団は名寄から157名、リンゼイから185名が相互訪問しており、その他にも少年JET事業や名寄短期大学学生派遣など、これまでの交流人口は人口3万人を割るまにあって650人を超える。また、2019年の姉妹都市提携50周年では、様々な記念事業を行い、幅広い年代から多くの市民が姉妹都市交流事業に参加するなど、多様かつ多数の者が関与している。
⑤ 協働性・連携性	行政は事業の運営費補助などの財政面や事務局などの側面的な支援を行い、友好委員会は様々な事業の企画や実施の主体となり活動しており、事業の効率的な実施が図られている。また、友好委員会メンバーが中心となり開催している「ハロウィンパーティー」では、名寄市立大学生やALTなど様々な市民が企画段階から参画しており、その一つ「トリックオアトリート」では、商店街や町内会など多様な主体間で協働・連携し、海外文化の理解促進や街なかの賑わい創出にも繋がっている。
⑥ 効果 (相手方にも与えた影響や効果を含む)	記念誌発行や記念式典などの50周年記念事業を契機に、これまでの交流の歴史を振り返るとともに、今後の地域の国際化や国際感覚を持つ青少年の人材育成に繋がる新たな取組みも生まれるなど、更なる国際交流の推進が期待される。また、交流活動を「友好委員会だより」として全町内会に回覧する取組を始めたり、北海道カナダ協会での活動を広く紹介することなどにより、地域の知名度やイメージ向上に繋がっている。
⑦ その他 (500文字以内)	名寄もリンゼイも、決して大きな自治体ではなく、名寄市の人口は3万人を割っているが、市民の温かい心と、自分たちでできる範囲での交流を続けることで、50年という年月を積み重ねてきた。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、リンゼイへの交換学生派遣が中止となるなど、様々な事業の実施が困難な状況にあるが、そのような中でも、これまでのリンゼイとの交流の経緯や、これまでの交流事業などについて紹介するとともに、相互親善訪問の記念品を展示する移動展を市内数か所で開催するなど、国際交流推進や地域の国際化に繋がる取組を行っており、他自治体の国際交流の模範となる活動が今後も期待される。

【審査のポイント】

①先進性	・他団体に広がる先例や模範となりうるものとなっているか。
②独自性	・創意工夫に富み、他団体では見られないような独自の発想や着眼点があるか。
③継続性	・活動の継続、効果や実績の定着が期待できるか。 ・(実績は少なくとも)今後の活動の継続性・発展性が大いに期待できるか。
④活発性	・活動内容が質量ともに充実しているか。 ・多様かつ多数の者が活動に参加又は関与しているか。
⑤協働性・連携性	・行政と住民等、多様な主体間での協働、連携がなされているか。 ・協働、連携により、事業の効率的な実施や成果の向上が図られているか。
⑥効果	・この取組により、地域の国際化、地域経済の活性化、地域の知名度やイメージの向上等につながっているか。